

【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	高萩市訪問型家庭教育支援チーム
活動開始年度	平成 28 年度
活動拠点	高萩市教育委員会、適応指導教室、拠点中学校2校
活動範囲	高萩市内全域
活動財源	<input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(地域における家庭教育支援総合推進事業) <input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(先駆的家庭教育支援推進事業) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()
組織体制	<u>14 人</u> 子育てサポーター 2人、元教員 6人、社会教育委員 1人、 特別青少年相談員 1人、保護司 1人、適応指導教室指導員 1人 市教委 2人
具体的な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問による保護者とのつながりづくり ・小学校1年生家庭全戸訪問 ・児童生徒の支援 ・学期1回「とまり木の会」を開催(SCを交え、なんでも自由に語る会) <p>※学校だけでは支援が困難な家庭を対象とし、保護者及び児童生徒の話を傾聴し、寄り添いながら「学校と家庭をつなぐ役割」及び「課題の早期発見・未然防止」・「専門機関への橋渡し」を目的とした活動を実施</p>
活動を通して感じていること (成果、課題など)	<p>平成 28 年度、この事業を実施するにあたり、学校だけでは支援が困難な児童生徒のいる家庭を対象とし、11 家庭 12 名の児童生徒(不登校児童生徒中心)を支援してきた。本市ではこれまで、児童生徒が在籍する学校の生徒指導主事や学級担任が、課題のある家庭に何回も訪問することで支援を試みてきたが、以前にもまして、家庭環境の複雑化・多様化がみられ、子育てに対する不安や家庭教育の重要性の認識が低い保護者が増加していると考えられる。</p> <p>しかし、家庭への連続した訪問支援により、その効果は徐々に現れ、家庭生活が立ち直り、子どもが毎日学校に登校できるようになったケースもある。実に、支援家庭 11 家庭中、8家庭で良好な支援結果となっている。これらは粘り強い訪問支援による効果だと考えており、訪問型家庭教</p>

	<p>育支援事業実施による効果は大きいと考えている。</p> <p>平成28年度は、学校からの支援要請のあった家庭を訪問支援してきたが、深刻な事例が多く、もう少し早い段階での支援を模索した結果、平成29年度は小学校1年生の家庭を全戸訪問する事で、早期対応を図ることとした。訪問型家庭教育支援事業スケジュールについて4月の校長会で各学校へ周知し、小学校でのPTA総会で、1年生家庭全戸訪問チラシを配布し、地域全体に事業周知を実施した。チラシの効果もあり、訪問を待っていた家庭も多かった。本市での取り組みも2年目となり、広く地域全体への普及をめざしたい。</p> <p>事業全体としての学校側の認知度は高まっており、学校からの支援依頼件数も増加している。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>(部署・氏名等)高萩市教育委員会 学校教育課 佐藤みゆき・生涯学習課 鈴木和子 学校教育課(TEL)0293-23-1135(E-mail) gakkou@city.takahagi.lg.jp 生涯学習課(TEL)0293-23-1132(E-mail) shougai@city.takahagi.lg.jp</p>